

総合資格学院は1級建築士試験も2級建築士試験も「日本一」の合格実績!

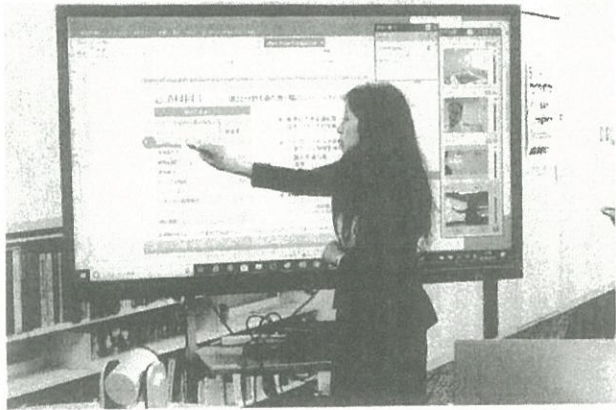
合格実績 **No.1**

2018年度 2級建築士試験 合格者数 **61.9%**

2018年度 1級建築士試験 合格者数 **2,179名**

総合資格学院

小野組・中村建設・中村組・深松組・砂子組・一三北路・福井建設・原工務所 「地域建設業が連携」



タッチパネル式ホワイトボードを使って講義する講師の田中氏
 最初は技術士試験用の講座としてスタートし、今後は1級土木施工管理技士、1級土木施工管理技士、1級建築士、1級建築士、1級建築士の講座も開設予定だ。

技術者に学びの場「和合館工学会」

地域の建設企業が連携して技術者の「学びの場」を構築する取り組みが始まっている。小野組(新潟県胎内市)や中村建設(奈良市)、中村組(浜松市)、深松組(仙台市)、砂子組(札幌市)、一三北路(同)、福井建設(広島市)、原工務所(島根県江津市)が共同で立ち上げた「和合館工学会」(本部・仙台市、学舎長・今西肇東北工業大名誉教授)だ。現場で働く技術者が、技術士などの資格を取得できる講座をテレワークで受講できる仕組みで、会長の小野貴史小野組社長は「地域建設業の人材育成の第一歩として、いまわれわれができることを始めた」と語る。

和合館工学会の講座の最大の特徴は、テレワークシステムを使った学習プログラムだ。インターネットに接続したパソコンがあれば、会社や現場事務所のパソコンで本部の講師とつながり、直接、講義を受けられる。モニターには、講師と講義用資料が表示され、教室で実際に講義を受けているような形で勉強できる。講義時間は、現場の仕事が終わった後に受講できるよう、午後5時から同7時まで2時間に設定した。講師

は、今西学舎長と技術士の田中義博氏が務める。1講座は計10回。仙台と新潟の拠点には、試行的にタッチパネル式のホワイトボードを導入しており、講師の板書が受講生のパソコンに表示されるほか、受講生が課題の論文を講師に送り、それをホワイトボードに表示しながら、直接、講師の添削を受けることも可能だ。既に会員企業の社員で技術士の1次試験に合格した6人を対象に、2次試験用の講座を実施中で、実務経験書の書き方や添削指導、選択科目などの講義を受けている。

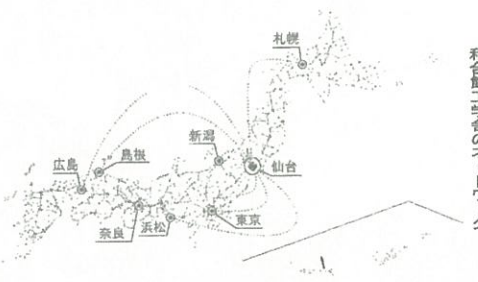


「個人の資格取得費の負担を減らしたいから」(小野会長)と理由を説明する。資格取得費用は会社負担の企業と個人負担の企業があるが、個人負担の場合、費用負担の大ききから資格取得をためらうことが多い。会社が支払った入会費や年会費の費用負担を減らし、技術者個人の費用負担を減らすことで、技術者の取得意欲を高めたいという考えだ。当面は、小野会長が参加している地域建設業新未来研究会(CCA)のメンバーに会員としての参加を呼び掛け、システムの課題改善などを進める。

災害・生産性向上にも使用するタッチパネル式のホワイトボードは、現場で撮影した画像・映像を映して、遠隔地から現場の様子を見ながら、指示を出すことが可能だ。このため、災害時に現場の状況を遠隔地の技術者がリアルタイムで確認したり、対応策を指示したりできる。「平時は勉強で使い、災害時には対応拠点として生かせる」(小野会長)と構想を巡らす。

「この将来的には、現場の技術者が、本社の技術士などに助言をもらいたい時に、ホワイトボードに現場を映し出して、その場で助言を受けるといった活用方法も考えられたい」と思い描く。

テレワークで資格取得受講



「九彫刻園」オープン



世界平和を象徴するものとして、パチカン市国のローマ法王宮殿をはじめ、仏教発祥の地インド・ブッダガヤのマハボディ大寺院、米国・ネイティブアメリカンの聖地ワイオミング州デビルズスタワーなど各地に設置されている。同園には、その2分の1サイズの作品を含め大理石彫刻作品9点が展示されている。「風の環」は、宮城県石巻市内で整備が進む東日本大震災犠牲者らを追悼する石巻南浜津波復興祈念公園内にも設置される予定である。そのミニチュア版は、武藤氏の



森林浴をしながら森に融け込む作品を楽しむことができる
 母校・仙台二高にも寄贈されている。45分から放送されるNHK教育テレビ『日彫刻園の模様』に関しては、23日午前9時 曜美術館 アートシーン』で紹介される。

行政・企業・作者が協力、自然と芸術に親しむ環境を整備

「環」シリーズは、